

## いま、戦後世代が 「戦場体験」を受け継ぐということ

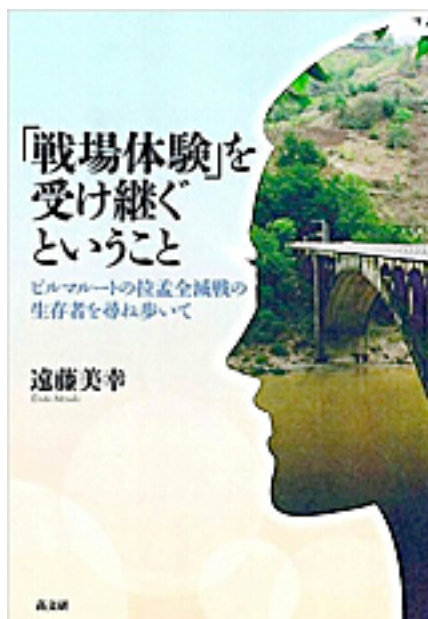
ビルマ戦線における拉孟全滅戦を事例に

戦争研究者 遠藤美幸

「戦争」にまったく興味がなかった（知らなかった）女性が、奇縁に導かれて戦争研究者になるまでの軌跡とその結果見えてきた——補給路が絶たれ孤立無援の「拉孟(らもう)守備隊」の運命、前線の慰安所、そこで翻弄された「慰安婦」の女性たちの生死や本音、歩兵と砲兵の確執など——多面的で矛盾に満ちた戦場の真相を明らかにします。

いま、戦場（戦争）の継承を考えると、私たちはどのような未来（社会）を望んでいるかを真剣に考えなければなりません。そのために何を継承すべきなのか、いま、私たちは問われています。70数年前の戦場の実相はもう過ぎ去った歴史事象で、いまに生きる私たちには関係ないのでしょか。

現在、安倍政権は日本国憲法9条の改悪を目指し、日本を再び戦争ができる国にしようと目論んでいます。私が聞き取りしてきた元兵士らは最後まで戦争はしてはいけないと訴え続けています。大日本帝国憲法下で天皇の臣民として命を投げ出し、命を奪ってきた元兵士らが語り、記した戦場の「本質」を知ることなしに、平和も、憲法9条の何たるかも語ることはできません。いま、戦場の何たるかを知らない人たちによって9条は蔑ろにされようとしています。



過去の戦争には直接関係のない世代でも、未来の選択には重大な責任があります。戦場（戦争）の本質を見極め、その本質を継承していくことは、いまの私たちの社会の舵取りに重要な判断基準を与えてくれるものだと確信します。

## 「9条守る請願」坂戸市に

安倍政権から9条改憲に向けての具体的プロセスが示され、日本が再び海外で戦争する国になる危険が極めて高まっています。

「海外で戦争させない坂戸市民の会」準備会から、坂戸市議会への「立憲主義を堅持し、憲法9条を守り、戦争しない日本をめざすことを求める意見書を国に提出する請願」に名を連ねてほしいとの申し入れがあり、4月の運営委員会です承しました。

「請願」は5月21日、11の団体・個人の賛同署名を添え、6月議会に向けて提出されました。

## 「坂戸にも核のごみ？」の概要(後編)

山田町 小林忠夫

### \* 日本学術会議の提言

- ◆ 科学者の国会といわれている日本学術会議の高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会が、2015年4月「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言—国民的合意形成に向けた暫定保管—」を発表した。
- ◆ 暫定保管は原則50年、遮蔽機能を持つ容器に入れて地上保管が望ましい。現段階ではまだ地下に埋設する条件は整っていない。しばらく研究を進めていく。
- ◆ 最終保管の方法はこれから50年では見通せない。暫定保管の継続か。

### \* 「特性マップ問題」研究連絡会

- ◆ 2017年、NUMOの動きに危機感を持った、地団研有志の呼びかけで、とりあえず連絡会を結成。メールで参加を呼びかけ、約40名が登録。
- ◆ 地域ごとに小グループをつくり、それぞれの地域の条件に応じて運動を展開。連携を取りながら、団体研究の可能性を模索。

## 九条の会さかど 13周年のつどい

日時 6月10日(日曜日)13時30分～16時

会場 坂戸市文化施設オルモ(2階)情報研修室

内容 戦場体験を受け継ぐということ (戦争研究者 遠藤美幸さん)

- ◆ 埼玉地域も、地団研埼玉支部の有志で相談しながら、市民運動へ展開を模索中。
- ◆ 2018年8月、地団研市原総会でのシンポジウムを計画中。

**\*これからのこと**

- ◆ 憲法9条を守るためには、まず「原発」を止めさせること。
- ◆ 核のゴミの処分は、学術会議の提言を取入れて、暫定保管から。
- ◆ 運動を進める組織を、市民・住民・科学者・技術者の連携で。団体研究を。
- ◆ 現状は「原子力むら」が優勢。情勢は刻々と変化。必ず新たな展開があるはず。

今回の「話題提供」は未完のものです。新たな展開を随時紹介します。

**早春のつどいに参加して**

日高九条の会 渡邊伸一

貴会よりのメールニュース、毎回読ませていただいています。今回、2月25日の九条の会さかどの「早春のつどい」を知りました。埼玉県議会が原発再稼働促進決議をした直後でもあり、講師が小林忠夫さん（九条の会さかど運営委員）が地学団体研究会会員でいらっしやるので、思い切って参加を決めました。

小林さんのお話で大事だと思った点を、以下の1～4にまとめてみました。

1. 福島原発事故で出ている核のゴミ処理の問題点（欺瞞性）を地質学から検討されたこと。
2. 原発から出る大量の汚染水処理の見通しは未定、結局は海洋に流出する分があること。
3. 廃炉に伴い出る「核のゴミ」を地下に埋める「科学的特性マップ」（経済産業省が発表）は非科学的であること。
4. 「科学的特性マップ」によれば、地下300mの地層に埋める埋設場所の候補地は全国に有り、特に埼玉県に不適地は無いこと。

埼玉県議会はなぜ「再稼働促進決議」を急いだのでしょうか。福島原発は海に隣接しています。「マップ」では「核のゴミ」の海上輸送も考えられています。「この核ゴミ」は陸上輸送で、「その核ゴミ」は海上輸送でと切り分けて埋設場所に運ばれる可能性があります。促進決議を推した埼玉県の自民党やその補完勢力は埋設場所に埼玉が選ばれることに魅力を感じたのでしょうか。

日高では2012年に市民による放射線レベルの測定会が行なわれ、雨水が集まりやすい場所の放射線レベルが高いことを知りました。2017年にも測定を行ない、いまだに核汚染が続いていることを確認しました。核汚染物質は食品を通じて、また呼吸器を通じて体内に入ってきます。原発の再稼働を許さず、再生可能エネルギーへの一日も早い転換が行なわれるべきだと思っています。

**早春のつどいの感想から**

- ◆ 原発事故を起こしてしまったということが、まずどうしようもないことだったのだと改めて思っています。今は処理のことが問題なのだが、一般の人々へは情報がきちんと知らされていないのだから恐ろしいことです。

本日は、別の地域からの参加者もあり、意見もバラエティに富んでいて、充実していたように思いました。**（新井竹子）**

- ◆ もう7年にもなるのに、問題は変わっていません。原発から出る大量の汚染水処理の見通しは不明であって、海に垂れ流しているのでは？

- ◆ 核のゴミは、地下300メートル以下の地層に埋めると言いますが、どこへですか？ 坂戸もそうですが、埼玉県はどこでも埋めるのが可能だなんて驚きです。

知らなかったでは済まされないことがたくさんあるというこの事実。危険だからこそ、知らせまいとしていることを知りました。

これからは、しっかり見、聞き、調べ、真実を知る努力を積み重ねようと思います。

**あの日から 8年すぎても 福島の  
市民生活 元に戻らず**

**（森戸 権平二幸子）**

- ◆ 今回の話題提供は、とても有意義でした。原発の底知れない恐ろしさは、隠しても隠しきれないものがあることが、徐々に我々の前に明らかにされてきたことです。地団研の活動、益々の発展を祈ります。

- ◆ 「核のゴミ」問題は原発政策の大きな問題点であり、国民の関心の高いテーマでした。3月の東北大災害（7年目）を前にして、タイムリーな企画だったと思います。

「プルトニウム使用と核武装化」と「原発再稼働」の関連性などは、広い意味で平和と国民生活を守る立場から考えるべきテーマであり、今後の活動企画としても継続する意味があると考えます。

当日の運営に関しては、運営委員会として準備面では不十分でしたが、「内容的」にも参加規模の面でも良かったと思います。**（末広町 石川裕一）**

**「安倍9条改憲NO！」署名 引き続き**

皆様からの「安倍9条改憲NO！」署名を「九条の会」事務局に送るにあたって確認したところ、引き続き署名を集めることが判明しました。

その後に集まった署名用紙は、運営委員に届けるか、「〒350-0224 坂戸市山田町10-53 小林忠夫」宛てに、ご郵送をお願いします。

**今後の運営委員会（会員なら誰でも参加できます）**

6月28日、7月26日、8月23日（第4木曜日10時～12時）  
会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。